



稲刈り後の耕耘について

稲わらや刈り株はそのままの状態でも腐熟は進みません。早期（10月下旬頃まで）にすきこむことで、稲わらの土壌分解が促進されます。稲わらのすきこみは稲刈り後できるだけ早い時期に行いましょう。

秋起こしをするメリット

メリット
1

翌年の雑草減少

雑草の塊茎を地表に露出させ、冬の低温・乾燥に当てることにより翌年に発生する雑草を減少させることができます。



多年生雑草の例 オモダガ



多年生雑草の塊茎は球形

メリット
2

生育障害の軽減

稲わらを秋にすきこむことによって、稲わらの分解時に発生するガスが抑えられ、根腐れ等の稲の生育障害を軽減することができます。

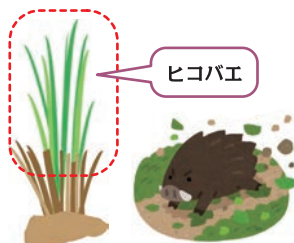


ガスが発生し、株元が黒くなった水稻。根が傷み、生育が悪くなる。

刈り株を放置していると…

⚠ 獣害を招いてしまう

稲刈り後の切り株から再度生えてくる稲をヒコバエといいます。ヒコバエに実った米を食べたイノシシが田んぼを餌場だと学習し、水稻栽培中にも獣害が出やすくなってしまいます。



ヒコバエ

⚠ 窒素不足や浮きわらが発生

春になってから稲わらをすきこむと、微生物が稲わらを分解する際に多量の窒素を吸収するので、土壌の窒素が不足し水稻苗の生育に影響が出ます。また、分解が間に合わず田植えの際に浮きわらが発生して邪魔になりやすいです。

秋起こしのポイント

POINT

作業は稲刈り後できるだけ早く行いましょう!

- 稲わらを分解する土壌微生物は地温が**15℃以上**で活動が活発になります。
→**10月下旬頃まで**にすきこみましょう。
- 石灰窒素を施用することで稲わらの腐熟を促進させることができます。
- 石灰窒素は**10a当たり20kg**が目安です。
- すきこむ深さは**5センチから10センチ**程度の浅めで十分です。



石灰窒素

土の健康診断をやってみませんか!



J A大阪北部では12月に土壌分析を行います!
土の栄養状態を数値で確認することにより、土壌に応じた施肥を行うことができます!

組合員 組合員(お一人様3圃場まで)

申込締切 令和5年11月17日(金)

対象土壌 耕作農地全般

申込受付 各営農経済センター及び

分析費用 無料

各支店購買店舗

● 詳しくは各営農経済センター及び各支店購買店舗へお問い合わせください。